

観光立国 変化への挑戦

日本旅行と日旅連 中国から訪日客の拡大めざす

紅気球オールジャパンリズム2007

12月10日 北京市で開催

日本旅行(金井社長)と日本旅行協定旅館ホテル連盟(日旅連、根津文博会長)北海道・御園ホテル)は12月10日、中国・北京のグリーセンターホテル(嘉里中心飯店)で「紅気球オールジャパンリズム2007」を開催した。現地の旅行業者と日本旅行のインバウンド旅行商品「紅気球」の08年度商品の造成に向けた企画会議を行ったほか、教育関係者、ハネムーン予定者、在中国の日系企業を対象に日本の観光情報の説明会を開催、中国人の訪日教育旅行、新婚旅行、インセンティブ旅行の来訪促進を図った。日本旅行の創業100周年記念事業の一環で05年から3カ年計画で進められた事業。05、06年は上海で実施しており、北京での実施は今回が初めて。日旅連会員など約600人が参加した。【森田淳】

「紅気球」商品企画会議



久保田氏

日本旅行の中国向けインバウンド商品「紅気球」は、日本の観光地を巡る3泊4日から6泊7日のツアー。中国では、現地の旅行業者が自社商品として販売す

今回は中国全土の旅行業者26社を招待、08年度に発売する「紅気球」について、中国側の意見と要望を聞き、日本側が提案した20のコースを完成品として仕上げることを目指す。日旅連訪日誘致推進委員会の久保田浩基委員長(岩手県・ホテル志戸平)は「紅気球は、日本旅行と日旅連



08年度「紅気球」商品の完成へ、日中双方が意見を交換した

「紅気球」交流パーティー



金井氏

夕刻行われた交流パーティーには、来賓として中国国家旅游局の范巨英・在京東国家観光局長、北京市旅游局の李雪敏・旅游促進一処副処長、在中国日本国大



范氏

使館の梅田邦夫・特命全權公使らが出席した。主催者を代表して金井氏は今年で3回目。「紅気球」ブランドも中国各地で浸透



李氏

し、その効果もあつてか当社が今年取り扱った中国からのインバウンドは1万5千人を超えるまでになった。未来に向けて、日中双方の人的交流拡大に大きく



梅田氏

「寄与できればと願っている」とあいさつ。范、李、梅田の各氏も、日中の交流拡大、友好促進を願うあいさつを行った。壇上では中国側から京



千葉氏

劇、日本側からよさこいソーランと津軽三味線のアトラクションを披露。日旅連の千葉俊隆常任副会長(静岡県・ホテル水葉亭)が中締めあいさつを行った。

教育旅行 情報交換会



中国の教育旅行事情を聞いた

中国の教育旅行を日本に呼び込もうと、北京市内の学校長や教育関係者を招いて、教育旅行の適地「日本」をPRした。また、中国の旅行業者を講師に招き、中国の教育旅行事情を日旅連会員らが学んだ。中国側の講師は北京海外旅游有限責任会社の袁晶副総経理。袁氏は①中国の教育制度の特色②訪日修学旅行の現状③訪日修学旅行の

報奨旅行促進へ 日系企業に説明会

旅游局など表敬訪問も 在中国の日系企業に向け、訪日旅行セミナーを前年に続き実施。このほか中国国家旅游局、北京市旅游局、北京市内旅行会社への表敬訪問も行った。日系企業向けセミナーでは、日系企業で働く中国人のインセンティブ旅行を促進しようと、日本の商務ビ

ザ制度や、商務ビザを活用した旅行の事例などを解説した。中国人が訪日する場合は一般的に、観光目的のグループツアーを対象にした観光ビザか、社員の報奨、親睦、視察などを対象にした商務ビザを取る必要があるが、取得の手続きが比較的簡単で、日本での行動の制約も比較的自由といわれる商務ビザについて、積極的な活用を訴えた。

「紅気球」ハネムーンフェア



沖縄のパネルをバックに来場者が記念撮影

中国のハネムーン予定者を招き、北海道、沖縄などを紹介するイベントを前年に引き続き実施した。中国で発行されている結婚情報誌で募集した一般客

150人を招待。ウェディング会場に装飾した場内では、各地方の中国語版のパンフレットを置いたブースを設け、来場者に日本への旅行を呼び掛けた。沖縄県上海事務所の仲里和之所長は「沖縄と中国の間は、那覇・上海便が週2便飛んでいるが、東南アジアなど他のビーチリゾートに比べて割高感がある。ただ、利用客は着実に伸びている」。沖縄観光コンベンションビューローの外山西・観光・コンベンション推進部誘客宣伝チーム主事は「宣伝不足もあり、北京での沖縄の知名度はまだ低い。このようなイベントを機会に、沖縄について少しでも興味を持っていただければ」と話していた。

日本人学校を訪問



よさこいソーランを踊る演舞隊と児童

交流パーティーで公演するため北京入りしたよさこいソーランと津軽三味線の演舞・演奏隊が北京の日本人学校を表敬訪問。文化貢献事業の一環で実施。よさこいソーランは北海道の大会で4年連続大賞を受賞した「新琴似天舞龍神」が出演し、児童・生徒を巻き込んで熱のこもった演舞を披露した。

となっている

「受験教育が熱心なため、授業時間に修学旅行を行うことは不可能。冬休みか夏休みに行うことになる。日本では学年単位で旅行を行うが、中国ではすべての学年を対象に希望者のみの募集形式で実施する。教育活動の補助として、科学技術環境保全、文化交流をテーマにした旅行が人気。」「経済が持続的に発展しており、人々の生活が豊か

になった。加えてひとりっ子政策のため、教育への投資は増えつつある。親は安全が確保されれば子どもを海外修学旅行に行かせたいと思っている。欧米に比べて中国人の修学旅行を歓迎していることや、直行便が多いことも日本にとってプラス材料。北京市の教育委員会は安全を理由に海外修学旅行を解禁していない。北京が解禁すれば中国全土に影響が出るだろう」